拡大へ 高校卒業まで！医療費助成

9月1日から始まった流山市議会（令和４年第３回定例会）で、また一歩、政治が前へ動きました。

「令和５年度予算編成に位置付ける」市長答弁

今議会、日本共産党市議団は、他議員１名と高校卒業まで対象を拡大する「子ども医療費助成に関する条例案」を共同提出。来週13日（火）には、委員会審査が予定されています。

そのなかで９月６日、市議会一般質問において、斉藤真理議員（公明）に対する質問に対し、井崎市長は「情勢の変化から、高校生までを対象とする子ども医療費助成制度について、令和５年度予算編成に位置付けるよう指示する」と答弁しました。



高校生まで医療費助成が拡大する扉が、我孫子市、松戸市に続き、いよいよ流山市でも開かれました。

一報を聞いた保護者や市内の歯医者さんからも歓迎と期待の声が聞かれました。

「所得制限の導入・窓口負担の値上げ」を許さない世論と運動が大変重要です

対象年齢の拡大は画期的です。しかし、油断は禁物です。

質問した議員も、答弁した市長も、現在の「所得制限ナシ・窓口負担２００円」という制度を変更することは否定せず、帳尻合わせに終始する可能性もあり、これからの市民の世論と運動が決定的です。

是非、ご一緒に、年齢を拡大し、「所得制限ナシ・窓口負担値上げナシ」の二つの「ナシ」も実現しましょう。





流山市議会議員
高橋 あきら

流山民報（２２．９．１３号外） 発行：日本共産党流山市議団 ０４７１５７６１４０